

高等学校第2学年 外国語科 学習指導案

1 単元名

LANDMARK Fit English CommunicationII (啓林館) Lesson5 Science of Love

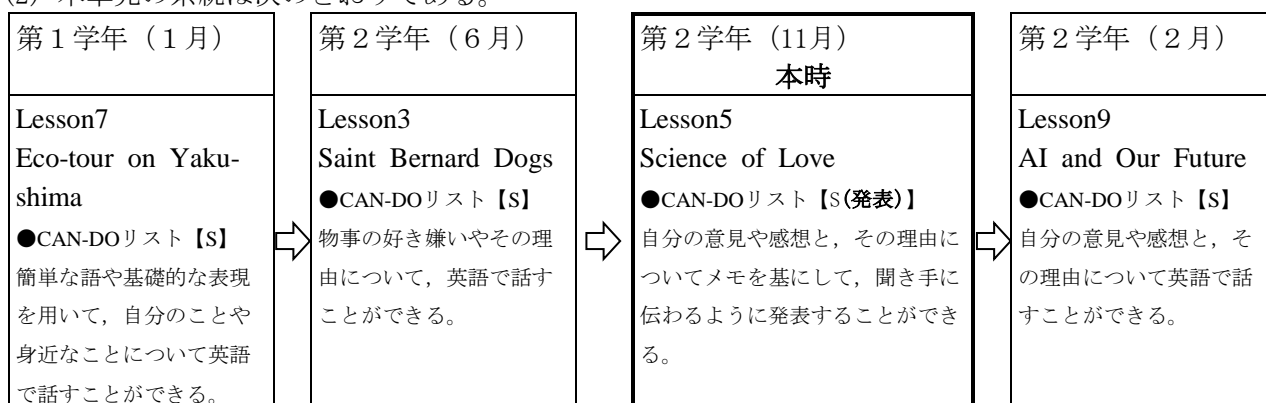
2 単元について

(1) 本単元は、高等学校学習指導要領第2章第8節外国語のコミュニケーション英語Ⅱの内容を受けて設定されている。本文は、恋愛の原因等について科学的に説明した文章である。本文を扱うことにより、リスニングでの概要把握、本文の速読・精読、発表活動、本文の要約など様々な学習活動を通して生徒の4技能をバランスよく育てることができる。

また、本文はグループで発表を行っているという設定で書かれている。生徒が英語で発表する際のポイントを学びながら、「恋愛」についての見方の一つを知り、自分の考えを広げることができる。さらに、本文のテーマである「恋愛」から発想を広げ、「愛」をテーマにしたスキットを行う中で、生徒が英語運用能力を高め、自らの「愛」についての価値観を明らかにすることができる。

本単元において、スキットを主たる言語活動に据えた授業を展開していくことは、多様化が進み、様々な人々との相互理解や協働が必要となる現代社会において、持続可能な社会の担い手及び未来の創り手としての資質・能力を育むこととなり、未来の創り手となる「豊かな学び」の創造につながるものであると捉える。

(2) 本単元の系統は次のとおりである。



(3) 生徒の実態は次のとおりである。

○男女の区別なく、明るく仲のいいクラスである。ペア活動やグループ活動においては、お互いに話し合い、協力して取り組むことができる。教師からの問いかけにはよく反応するが、英語に対して苦手意識を持つ生徒が多く、英語学習に対して消極的な面がある。

○英語の技能等に関する意識調査の結果<平成30年11月調査 調査対象：31人>

ア. とてもあてはまる イ. ややあてはまる ウ. あまりあてはまらない エ. ほとんどあてはまらない

アンケート項目 (一部抜粋)		ア	イ	ウ	エ
①	私は、英語を学ぶことは将来の自分にとって役に立つと思う。	22.6%	58.1%	19.4%	0%
②	私は、授業や学校生活において、自ら考え価値観を表現しようとしている。	0%	6.4%	71.0%	22.6%
③	私は、自分の趣味や特技に触れながら、英語で自己紹介をすることができる。	3.3%	32.2%	41.9%	22.6%
④	私は、自分の経験や夢、希望を順序だて、話を広げながらある程度詳しく英語で語る(1分程度)ことができる。	0%	3.3%	41.9%	54.8%
⑤	私は、英語で発表する時、テーマに関する自分の考えや意見をはっきりさせている。	0%	0%	29.0%	71.0%
⑥	私は、英語での発表を練習する時、聞き手にどのように聞こえるかを意識している。	0%	6.4%	25.8%	64.6%
⑦	私は、自信を持って英語での発表ができる。	0%	0%	19.4%	80.6%

意識調査によると、「英語を学ぶことは将来の自分にとって役に立つと思う」という項目(①)で、「とてもあてはまる」または「ややあてはまる」と回答した生徒が全体の約81%であった。「価値観の表現」に関して(②)、「とてもあてはまる」または「ややあてはまる」と回答した生徒が全体の6.4%である。また、「英語での自己紹介ができること」に関して(③)、「とてもあてはまる」または「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、35.5%であった。一方で、「自分のことについてのスピーチ」(④)に関する項目で、「とてもあてはまる」または「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は3.3%と低くなっている。また、英語での発表に関する項目(⑤⑥⑦)について、肯定的な回答をした生徒の割合はそれぞれ0%、6.4%、0%と低くなっている。

(4) 指導に当たっては次の事項に留意する。

- 本単元の学習活動を通じて、自らの価値観を振り返り、英語での発表機会を持つことで、生徒が英語学習に少しでも自信を持つことができるようにしたい。また、間違いを恐れず発表ができる環境を作り、英語学習に対して積極的に取り組む姿勢を育てていく。
- 「研究の視点①」に基づき、原稿作成や発表練習の際に、生徒が「聞き手に何を伝えたいのか」を明確にして活動に取り組むことができるようにする。生徒が、スキットの準備段階で、お互いの意見やアイデアに耳を傾け、自らも意見や考えを述べる姿を目指す。そのために、お互いを高め合おうとする雰囲気作りや、モデルやヒントの提示、ワークシートの工夫により、生徒が自らコミュニケーションを円滑に進められるようにしていく。

研究の視点①

「見方・考え方」に着目した問いの工夫

スキット作成および発表において、聞き手を意識した原稿作成や発表の練習を行うことで、生徒がコミュニケーションの目的や場面、状況等を踏まえながら活動に取り組むことができるようにする。

- 「研究の視点②」に基づき、振り返りシートを工夫する。そのために、CAN-DO リストの項目等を振り返りの視点として組み込む。また、発表練習の際には ICT 等を活用することで、生徒が自らの発表を客観的にとらえ、自らのパフォーマンスの改善につなげるようにしていきたい。

研究の視点②

学びを実感する振り返りの工夫

CAN-DO リストの項目を含めた振り返りシートを活用し、生徒が自らの変容に気づき、学びを実感できるようにする。また、発表練習の際に ICT を活用することで、自らのパフォーマンスの改善につなげることができるようにする。

3 単元の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」）

単元の目標	聞き手に内容が伝わるような工夫を加えてスキットを行うことができる。		
関心・意欲・態度	外国語の表現	外国語の理解	言語や文化についての知識・理解
①原稿作成や発表練習の際に、聞き手に内容が伝わるよう工夫しながら取り組んでいる。	①聞き手に内容が伝わるように、「愛」についてのスキットを行っている。	①教科書本文の内容とその構成を理解している。	①本文中に述べられている「恋愛」についての理論を理解することができる。 ②do you think を含む wh-疑問文、補語となる that 節、関係代名詞 whose、及び同格の that の意味・用法を理解することができる。

4 指導・評価の計画（9時間取扱い 本時9／9）

次	時	学習活動	研究の視点	評価
一	1	【Part1】 1 ワークブックを基にして本文の内容を理解し、定着を図る。	【研究の視点②】 学びを実感する振り返りの工夫	【外国語理解】 ①：ワークブック 【知識・理解】 ①②：ワークブック
	2	【Part2】 2 ワークブックを基にして本文の内容を理解し、定着を図る。		【外国語理解】 ①：ワークブック 【知識・理解】 ①②：ワークブック
	3	【Part3】 3 ワークブックを基にして本文の内容を理解し、定着を図る。		【外国語理解】 ①：ワークブック 【知識・理解】 ①②：ワークブック
	4	【Part4】 4 ワークブックを基にして本文の内容を理解し、定着を図る。		【外国語理解】 ①：ワークブック 【知識・理解】 ①②：ワークブック
二	5・6・7	5 スキット原稿とメモを作成する。	【研究の視点①】 「見方・考え方」に着目した問いの工夫	【外国語表現】 ①：ワークシート
	8	6 スキットの練習を行い改善する。		【関心・意欲・態度】 ①：観察
	9 本時	7 スキットの発表を行う。 8 単元を通した振り返りを行う。		【外国語表現】 ①：観察

5 本時の学習

(1) 目標

聞き手に内容が伝わるように、英語でスキットを行うことができる。

【CAN-DO リスト(話すこと：発表)】

「自分の意見や感想と、その理由についてメモを基にして、聞き手に伝わるように発表することができる。」

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	1 本時の流れを確認する。 学習課題(めあて)		
	<p>Make an original skit. Perform and enjoy it with classmates. THEME: Love オリジナルのスキットを作って、クラスみんなで楽しもう。 テーマ：愛</p>		
展開 42分	2 ルールを確認する。 3 スキットを行う。 (3分×8回)	<p>能動型学習 (ポイント)</p> <p>○それぞれのグループが、聞き手に伝えたい内容を明確に持ち、工夫したスキットを行うことができるようにする。</p>	
	<p>【言語活動】</p> <p>「愛」についてのスキットを演じる際、語の表現や抑揚、ジェスチャー等を工夫して聞き手に伝わるように英語で発表する。</p>	<p>評価：外国語表現①(観察)</p> <p>B基準 英語でのスキットにおいて、メモを用いて聞き手に内容が伝わるように声の大きさや視線等を工夫して行っている。</p>	
	4 相互評価	<p>A基準 メモを見ずに、聞き手に内容が伝わるように声の大きさや視線等を工夫して英語でのスキットを行っている。</p> <p>〈B基準に達していない生徒への手だて〉</p> <p>○ワークシートや原稿、及び相互評価シートを確認させて、スキットのねらいを意識させる。</p> <p>【研究の視点①】</p> <p>聞き手に内容を伝えることを意識させ、発表方法に工夫を施したスキットを行うことができるようにする。</p> <p>○ルーブリック的手法を活用した相互評価シートを作成し、観点を明確にして評価を行うことができるようにする。</p> <p>○挙手にての投票を行う。1位のグループを発表し、全体の前で再度スキットを行わせる。</p>	
	5 振り返り(グループ) ○話し合い活動	<p>○1位の発表や相互評価の結果を基にして、自分たちのスキットで伝えなかった内容が伝わったかどうかについて、また、改善すべき点を明らかにすることができるようにする。</p> <p>※グループ内での話し合いは日本語で行わせる。</p>	
整理 3分	6 振り返り(個人) ○振り返りシート記入	<p>【研究の視点②】</p> <p>振り返りシートに記入させることで、生徒がスキットに対する取組全般を振り返り、自らの変容に気付くことができるようにする。</p>	振り返りシート